

令和7年度学校関係者評価委員会兼第5回学校運営協議会兼校内コンプライアンス委員会議事録

1. 日時・場所

- ・日時： 令和8年1月23日（金） 午後1時00分～午後4時00分
- ・場所： 静岡県立島田工業高等学校 会議室および体育館

2. 出席者

- ・学校関係者（委員）：学校運営協議会委員5名、阿知ヶ谷・東光寺自治会長
- ・学校職員：
校長、副校長、教頭、事務長、総務部長、教務部長、生徒指導部長、進路指導部長

3. 会議の概要

（1）各部署からの報告

- ・教務部： 欠席・遅刻者数はコロナ禍明けから減少傾向にある。一方、学習面では**「基礎力診断テスト」のDゾーン（基礎学力課題層）の生徒が増加傾向にあることが課題とされ、来年度より実施時期の精査やアプリの活用による意欲向上を図る計画が示された。家庭学習時間は平均50分で、目標の60分には届いていない。
- ・生徒指導部： 今年度の指導件数は2月時点で2件（喫煙等）と例年より少なく、生徒は落ち着いて生活している。交通安全面では**自転車事故が3件（前年度7件）に減少**したが、依然として1年生の事故が目立つため指導を継続する。
- ・進路指導部： **就職内定率は99%を達成**。求人倍率は約18倍から21倍と極めて高い水準を維持している。進学面では国立大学（新潟大学）への合格者も出た。今後は早期からの公務員試験対策や、指定校推薦以外の総合型選抜への対応を強化する。
- ・総務部： PTA活動の負担軽減のため、理事の定数削減やバザーの組織改編を行った。防災面では、備蓄食料を「72時間の壁」を考慮した内容に更新する予定である。

（2）校内コンプライアンス委員会および学校評価報告

- ・不祥事根絶のため、教職員と生徒間のSNS利用禁止や個別面談の複数人対応などの共通ルールを徹底している。
- ・学校評価アンケートでは、生徒の90%以上が「学校生活が楽しい」と回答しており、良好な状況である。課題として、ホームページの更新頻度や部活動の活躍に関する外部へのPR不足が挙げられた。

（3）課題研究発表会（体育館）

- ・地域課題解決、防災などをテーマとした生徒の発表が行われた。

（4）学校自己評価の説明

- ・各重点目標に対し、概ね「A（達成）」または「B（概ね達成）」の自己評価が報告された。ただし、「授業参観をした教員の割合」や「基礎学力（Dゾーン）の推移」については**C評価（やや不十分）**とし、次年度の改善項目とされた。

4. 意見交換の主な内容（委員からの提言）

- ・課題研究について： 最先端技術（3Dスキャン等）の活用を評価する一方、「その効果をデータで検証し、次へどう生かすか」という視点を加えることで、さらに探究学習の質が高まる。
- ・情報活用とセキュリティ： 生徒の情報収集能力は向上しているが、企業目線では**情報セキュリティのリスク管理意識**をさらに高めてほしい。
- ・地域との連携： 生徒が学んだICT技術や防災知識を、地域の小中学生や高齢者に指導・普及させるような、地域全体のデジタル化への貢献を期待する。
- ・家庭との連携： 保護者の自由記述に厳しい意見もあった。家庭での評価や教育方針が学校生活に影響するため、学校の狙いを丁寧に伝える必要がある。

5. 今後の予定

- ・学校関係者評価の返信： 2月6日（金）までにメールまたは郵送にて提出。
- ・次年度委員の推薦： 2月13日（金）までに副校長へ連絡。